

. NETについて (4)

. NETはMicrosoftのシステム構築基盤ですが、これまでの同社の構築基盤であるVisualBASICやVisualCとはプログラミング言語の文法などが異なります。そのため、従来のWebシステム構築基盤ASP(Active Server Pages)やVBの開発者が、. NETに移行するには、新たにVB、. NETやC#といったオブジェクト指向言語を習得しなければならないということになります。しかし、基本的には、VBでありCですから、実際、. NETの採用は進みつつあります。現在まだ普及が始まった段階ですが、Web環境でMicrosoftの開発環境を採用しているユーザのうち2割程度が、. NETを採用しています。また、多くのシステムインテグレータでは、. NETのシステム開発者の養成も進んでいます。

. NETはMicrosoftのさまざまな製品や技術を統括するブランド名で、そのカバーする範囲は非常に広がっています。システム間連携技術としては、ECサイト統合としてXML Webサービス、認証サービスとして、. NET Passport、イベント通知サービスとして、. NET Alerts、サーバアプリケーション群として、. NET Enterprise Serversがあり、システム構築基盤として、開発環境としてのVisual Studio .NET、実効環境として、. NET Frameworkがあります。このように、. NETにはシステム間連携の側面と、システム構築基盤の側面があり、これまでMicrosoftは、XML Webサービスなど、新しいシステム間関連技術としての側面に軸足を置いて、. NETのマーケティングを展開してきました。そのため、XMLは今後の技術で今すぐには必要ないという印象もあったため、まだ十分に理解されていない面があります。現時点で技術者が注目しているのはシステム構築基盤としての、. NETです。Microsoftは、次期OfficeでXMLとの連携が中心になるなど、XMLへの対応を進めています。Microsoftは今後既存のASPやVBに対して大幅な機能拡張はしないとしていますし、今後Microsoftが提供する新機能を使いたいのであれば、. NETを採用する以外選択肢はないことになります。

ここでXMLですが、これは、データをネットワーク上で送受信するための言語で、これまでのWebで使われてきたHTMLがタグという特別な文字列で囲むことによって、文字の大きさやリンクなどを表現するマークアップ言語であるのに対して、XMLはタグを使うことは共通していますが、そのタグの意味を規定していないところに違いがあり、他のマークアップ言語の骨組みとして使用されている事が多いです。XMLはコンピュータ同士でのデータの送受信に使用できるほか、Webブラウザで直接閲覧することも想定されています。ブラウザで快適に閲覧するための仕様として、ブラウザで見る場合の表現を記述するXSLやハイパーリンク機能を実現するXLink/XPointerなどが用意されています。

. NETはある程度普及しているJavaに比べて、これからの開発環境ということができます。. NETはその広い製品群で、Web開発に必要な環境をすべてOSを含めて対応するという、Microsoft独特の戦略によるものですが、確かにこれから登場するであろう新機能(Officeなどとの連携など)を考えた場合、十分選択の優先度は高く、今後についても注目していかねばならないものということができます。(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 8月4日号

特集 箱を開ければ、そこにケータイ

→いつでも、どこでも、誰とでもが携帯電話であり、ユビキタスのひとつとして、人が身につけて持ち運ぶことを前提として機能強化してきた。もう1つの面として、通信モジュールが小さくなったことにより、他の機器に組み込んで通信機能を持たせることが簡単になってきている。ケータイの進化の方向が、人からモノへと変化してきている。

解説 クルマで瞬き始める電子の「眼」

→バンパーの左右に1個ずつと後方に1つカメラを取り付けたものや、前方にミリ波レーダを取り付け衝突を防止しようとするものなど。近い将来は、10数個の「眼」が付き、運転補助するようになる。

○日経パソコン 8月18日号

特集 書き込み型DVD「120%」活用法

→CD-Rの7倍もの大容量のDVDが、使いやすくなってきた。乱立する規格にすべて対応したドライブが発売となり、家庭用DVDプレーヤやレコーダが爆発的に売れ始めている。まず基本を掴んで、その使い方をマスターする。

特集 修理料金のからくり

→購入して1年は無償保証のパソコン、しかし、もちろん使い方のミスやぶつけたりしていれば有償になる。交換部品があればいつでも有償で、見積りも有償。部品にいたっては、世間相場は関係なく高い。最低技術料を含んで2万以上はかかると見たほうがいい。

○DOS/V magazine 9月1日号

特集 オーバークロック勝利の方程式

→CPUを定格の周波数よりも高くするオーバークロック、簡単にオーバークロックにすることはできないが、その方法論を十分理解したうえで伸張にすれば問題は少なくなる。あたりのCPUにあたれば、2.4GHzのCPUも3GHzで使えるかもしれない。

特集 ビデオコーデック画質対決

→動画データを圧縮/解凍するときに使われるビデオコーデック。これまでのDivXやマイクロソフトのWMVといったコーデックに対して、ハードウェアコーデックも可能なXVDが登場した。その画質は、どうか。